

先端技術によるボーダレスアート鑑賞モデル創出事業に係る課題及び技術に関する調査・モデル策定業務委託仕様書

1. 事業名

先端技術によるボーダレスアート鑑賞モデル創出事業課題及び技術に関する調査・モデル策定業務委託仕様書

2. 事業目的

2025 大阪・関西万博で注目された生成 AI や AR グラス等の先端技術を活用し、障がいの有無を超えた「ボーダレス」な鑑賞体験を創出する。主たる実装先は美術館・博物館・劇場・ホール等の文化施設の実空間とし、生成 AI による対話型解説等や AR による字幕・手話・誘導表示など現場運用可能な方法で、鑑賞の QOL 向上と社会参加の促進を図る。障がい特性別芸術鑑賞に関する課題を整理し、次年度以降の実証・社会実装につなげるとともに、府がリーダーシップを発揮し文化施設・企業・利用者の適切なコスト分担による持続可能な仕組みの確立をめざす

3. 事業内容及び提案を求める事項

本事業で実施する業務は、次の(1)~(4)とする。なお、業務の実施に当たっては、大阪府（以下「発注者」という。）と十分に協議・調整をすること。

なお、本業務は調査・分析および次年度以降の検討に資する整理を目的とし、実証実施、システム・機器の詳細設計、調達、運用の実務を含まない。

(1) 障がい種別ごとの芸術鑑賞に関する課題整理

発注者が契約後に提示する「芸術鑑賞における障がい種別（身体、視覚、聴覚、知的、精神）の主な課題例」を起点に、関連資料レビュー（学術論文や文化庁・厚生労働省等の調査資料を含む）を通じて、課題に関連する取組や対応の現状を把握するとともに、今後の検討に資する論点の整理を行う。

(2) 先端技術の調査・整理

大阪・関西万博をはじめ、国内外の先端技術動向を文献・公開情報等により調査し、生成 AI、AR/XR、センシング技術等、課題解決に資する可能性のある技術について、特性、導入条件、運用上の前提（必要機材、環境条件、体制、概算コストの範囲等）を整理する。

また、(3)のマッチング候補となる技術については、発注者と協議の上、企業ヒアリングや技術レビューなど調査の実効性を高める範囲で必要に応じて実施する。

(3) 課題と技術のマッチング案の作成

(1)で整理した課題と(2)で整理した候補技術との対応関係を整理し、実用性、導入コスト、期待効果、運用可能性、想定リスク等の観点から、マッチングの方向性（概念レベル）を提示する。

なお、本業務は実証実施や詳細設計を目的とするものではない。

(4)次年度以降のモデル構築に向けた提案書の作成

マッチング結果を踏まえ、次年度に実施すべきモデル構築の方向性、技術構成、実証内容、体制等を整理した提案書を作成する。あわせて、9 月末を目途に次年度予算要求に資する中間報告を行う。

＜提案を求める事項＞※本プロポーザルでは、詳細設計に相当する水準は求めない。提案は、手法・進め方・基本的考え方の提示をもって足りるものとする。提出分量は本文 8 ページ(表紙・目次除く)を上限とする。

項目 A: 課題整理の進め方(対応業務:(1))

- 発注者が契約後に提示する「芸術鑑賞における障がい種別(身体、視覚、聴覚、知的、精神)の主な課題例」を踏まえ、関連資料レビューおよび必要最小限の関係者ヒアリングを通じて課題を整理するにあたり、資料の選定観点や確認の順序を含めた進め方の方向性。
- 障がい種別ごとの課題整理を行うにあたり、既存のバリアフリー施策や情報保障の取組状況を把握した上で、課題として整理すべき点をどのような視点で抽出するかの考え方。
- 本業務における課題整理が、後続の技術調査・マッチング検討(項目 B)につながることを念頭に置いた、課題整理の進め方に関する基本的な考え方。

項目 B: 技術調査の進め方(対応業務:(2)(3))

- 技術カテゴリ(生成 AI/AR・XR/センシング等)の調査範囲と期待効果、導入条件、運用前提、概算コスト帯、リスク(権利・個人情報等)を含む評価視点の考え方。
- 企業ヒアリング・技術レビューの実施方針(必要時のみ/件数・対象は提案の考え方を示すに留める)。

項目 C: 課題と技術のマッチングの進め方(対応業務:(2)(3))

- 課題と技術の対応付け(マッチング)の考え方(概念レベルでの手順、評価観点の提示)。
- 比較評価に用いる評価軸の設定・整理の考え方、根拠データの扱い、不確実性への対応(代替案・見送り判断を含む)及び今年度業務の到達点と扱わない範囲の整理。

項目 D: 体制・スケジュール・成果のまとめ方(対応業務:全体・(4))

- 実施体制(基本設計): 主要役割、必要な専門性の配置方針、リスク管理の考え方。
- スケジュール案: 中間報告(9 月末)までのマイルストーンと意思決定ポイント。
- 成果のまとめ方: 最終提案書の構成案(骨子レベル: 次年度のモデル構築に接続可能な形)。

項目 E: 実績・専門性(対応: 全体)

- 障がい者支援、文化芸術、先端技術活用、公的調査等に関する直近の実績のうち、本業務に適用可能なものの概要。
- 本業務の遂行にあたり活用し得る既存ネットワーク(当事者団体、文化施設、企業等)と、その活用の考え方。
- なお、実績の件数やネットワークの広さ自体を問うものではなく、本業務の内容・規模に照らした適用可能性及び実効性を示すこと。

留意事項:- ヒアリングや意見交換の場は、発注者と協議のうえ、関係者負担に配慮して必要最小限とする。

- 任意付録を出す場合は 1 ページ以内。詳細な比較表や網羅的文献リストの提出は不要。

4. 契約期間

契約日 ~ 令和9年3月31日（予定）

5. 委託金額（上限）

9,719千円（税込）以内

6. 成果物

最終報告書一式（課題整理、技術調査、マッチング、連携記録（発注者との協議概要、必要に応じて実施したヒアリング等の記録を含む）、次年度提案を含む）

※必要に応じて別冊添付可（中間報告にかかわる内容を除く）

7. 応募要件（法人・団体）

応募要件の詳細は公募要領の公募参加資格に定めるところによる。

8. 選定方法

プロポーザル方式による。提出された企画提案書をもとに、以下の観点で評価する：

事業理解度

実施体制・スケジュールの妥当性

実績・専門性

提案内容の調査の工夫（有効性）・実現可能性

コストの妥当性

※詳細は公募要領の審査基準による。